台風の接近に伴う強風・豪雨等に
対する事前・事後対策について

令和５年６月９日
奈良県農業水産振興課

【全般】

・台風が接近、通過する場合の圃場見回り等については、人命第一の観点から、気象情報を十分に確認し、大雨や強風がおさまるまでは行わない。また、大雨や強風がおさまった後も、増水した水路その他の危険な場所には近づかず、転落、滑落事故等にあわないよう慎重に圃場見回り等を行う。これまでの豪雨により地盤が緩んでおり、畦畔や圃場が崩れる可能性があるため注意する。
・野生獣侵入防止柵の設置圃場では、台風通過後に前述の内容を充分に留意して点検を行い、破損が発生した場合、修繕を行う。

１．水稲・小麦

水　稲

（事後対策）
・冠水および浸水したほ場は、速やかに排水に努める。
・泥水が冠水した場合は、きれいな水で洗い流す。

＜山間地域＞

（事前対策）移植後の圃場については、深水にして風による苗の揺れを防ぐ。
（事後対策）水害後は紋枯病、白葉枯病等が異常発生しやすいので充分注意し、時期を失しないよう防除する。

＜平坦地域＞

（事前対策）苗床の被覆資材が飛ばないようにしっかり固定する。
（事後対策）冠水した苗床については、立枯れ病を防ぐために台風通過後に薬剤による予防散布を実施する。

小　麦

（事前対策）圃場内の水の滞留を防ぐために排水対策を徹底する。

２．野菜類事前・事後対策

（事前対策）
圃場の排水路を確保するとともに、周辺水路のつまり等による、圃場への水の流入を防止するため、水路の点検を行う。

（事後対策）
圃場内の水の滞留は、根傷み・根腐れを起こし、樹勢低下の原因となるほか、病害発生の原因にもなるので、速やかに排水対策を実施する。

イチゴ・ナス

(1)事前対策

イチゴ

・育苗圃では、風による葉の傷みを防止するため、べたがけ資材等で保護する。

・イチゴ苗床の雨よけハウスは、簡易な施設が多く見られるため、天気予報等により台風被害が予想される場合は、被覆フィルムを除去する。

ナス

・枝折れを防止するため、大きな果実は除去しておく。

・定植後圃場では、必ず仮支柱を設置し、茎葉の損傷を軽減する。

(2)事後対策

イチゴ

・地床育苗（ベッド、ポット育苗等）で冠水した場合、速やかに排水するとともに疫病の防除を行う。

・炭疽病の予防として、台風通過後、速やかに薬剤による防除を実施する。

・イチゴ苗床の雨よけフィルムを除去した場合は、台風通過後に速やかに雨よけフィルムの再被覆を行い、薬剤散布による炭疽病の防除を行う。

ナス

・キズ果や折れた茎等を除去し、その後、薬剤散布による病害の防除を行う。

その他野菜

果菜類

（事前対策）

▪ 可能であれば支柱や誘引ひもによる補強をし、早めの収穫を行う。

（事後対策）

▪ 傷果や茎葉などの残渣は病害発生の原因となるので、圃場外に持ち出し処分する。

・施設トマトでは、茎葉が風雨にさらされた場合、薬剤による疫病の防除を行う。

葉菜類

（事前対策）

▪ 強風による被害が予想される場合には、可能であればべたがけ資材の利用等によって保護する。

（事後対策）

・病害発生が拡大する可能性があるので、薬剤による防除を行う。

３．花き

(1)事前対策

・超簡易型防虫ネットハウスや電照設備など、強風による被害が考えられる資材は台風の影響が出るまでに被覆材やケーブルを外し、周辺に飛んでいかないように収納する。

・排水路の整備、通路末端の溝切りなどの排水対策を行い、根傷みや病害発生を抑える。通過後に水が溜まる場合は速やかに排水する。

・露地花きでは、倒伏防止のためフラワーネットや支柱の点検・補強を行う。

(2)事後対策

・台風の通過によって激しい風雨に遭遇した場合は、折れた茎葉の除去や適切な薬剤散布等により病害の発生抑制に努める。

・露地花きでは、倒伏したものはできるだけ早く引き起こし、フラワーネット等のゆるみを直して茎の曲がりを防止する。

・天候が回復した後、被覆資材、支柱、防虫ネット等の栽培施設や資材の点検及び修復を行う。特にキク等の栽培に係る電照関連施設（電球、タイマー等）については、速やかに動作点検を行う。

４．果樹

(1)事前対策

・排水対策を行うとともに、可能な限り添え木や支柱で樹体を固定する。

・枝を補強するために、隣接する樹の主枝、亜主枝を誘引しあい、強風による枝の揺れを少なくする。

・裂けそうな枝は、かすがいを打ち込んでおく。

(2)事後対策

・台風の通過によって激しい風雨に遭遇した場合は、病害防除を徹底する。

・台風の通過後、山林が荒れることによりカメムシ類の果樹園への飛来の恐れがあるので、園地の観察をこまめに行い、カメムシ類が確認された場合はただちに薬剤防除を行う。

５．茶

(1)事前対策

・排水路の整備を行い、降水・雨滴の衝撃を緩和するため、敷きわら、敷き草を施用する。

・被覆の固定を確認する。

6.ハウスの強風対策

ガラス室

・基本的には強風に強いが、飛来物によってガラスが割れることがあるので、安全性を重視した対応が必要である。

鉄骨ハウス

・風が入らないように被覆を完全にし、換気扇を作動させ、屋根の浮き上がりを抑える。ハウス周囲の排水を図り、基礎部分が浸水して抜けやすくなることを防ぐ。

APハウス

・連棟の場合、強度は十分でない。風が入らないように被覆を完全にし換気扇を作動させて、屋根の浮き上がりを抑える。鉄骨ハウス同様に、基礎部分の浸水を防ぐ。筋交いなど十分でない場合は補強が必要である。

パイプハウス

・周囲の排水を図り、ハウスサイド杭の強度のチェックと接合部の補修を行う。また、サイドのビニールをおろしてすきま風が入らないようにし、ハウスバンドを締め直して被覆フィルムの緩みを直す。

・換気扇のある場合は、被覆を完全にし換気扇を作動させて、屋根の浮き上がりを抑える。

・ただし、暴風が予測される場合、事前に被覆フィルムを取り去る。

その他

・台風の強風時に作業をすることは危険なので、準備は事前にしておく。